



2021年5月14日

各 位

会社名 株式会社ツバキ・ナカシマ  
 代表者名 取締役兼代表執行役社長CEO 廣田 浩治  
 (コード番号 6464 東証第1部)  
 問合せ先 IRマネージャー 森田 郁史  
 (TEL 06-6224-0193)

## 劣後特約付シンジケートローンによる資金調達のお知らせ

当社は、2021年5月14日開催の取締役会において、劣後特約付シンジケートローン（以下「本劣後ローン」）による資金調達について決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 本劣後ローンでの調達の目的と背景

当社は、本日、“セラミックビジネスの拡大、メディカルデバイスビジネスの拡大・世界展開、アジア市場の拡大強化”を成長戦略に据えた「中期経営戦略」を発表いたしました。

上記3つの成長戦略を推進するとともに、財務体質の強化および資本効率の維持・向上を図るため本劣後ローンでの資金調達を行うことといたしました。

#### 2. 本劣後ローンの特徴

本劣後ローンは、資本と負債の中間的な性質を持ちながら、負債であることから一株当たりの株式価値の希薄化は発生しない一方、利息の任意繰延、超長期の償還期限、倒産手続き等における劣後性など、資本に類似した性質および特徴を有しております。このため、当社では株式会社格付投資情報センター（R&I）より資金調達額の50%に対して資本性の認定を受けることを見込んでおります。

#### 3. 本劣後ローンの概要（予定）

調達金額	100億円
契約締結日	2021年5月25日
実行日	2021年6月30日
弁済期日	2051年6月30日
期限前弁済（注）	実行日から7年目以降の各利払日に、又はその他一定の事由に該当する場合に、元本の全部または一部の期限前弁済が可能
資金使途	長期事業資金
利息支払に関する条項	利息の任意繰延が可能
劣後特約	本劣後ローン契約に定める劣後事由（清算、破産、更生手続、再生手続等）が発生した場合、本劣後ローンの弁済順位は全ての上位債権者に劣後する。 本劣後ローン契約の各条項は、上位債権者に対して不利益を及ぼす内容に変更してはならない。

貸付人	株式会社りそな銀行（リードアレンジャー）、株式会社日本政策投資銀行（ジョイントアレンジャー）、株式会社中国銀行、株式会社南都銀行、第一生命保険株式会社、富国生命保険相互会社、株式会社関西みらい銀行、株式会社みなと銀行、株式会社八十二銀行
資本性	株式会社格付投資情報センター「クラス3、資本性50」

（注）当社は、本件の弁済期日以前に期限前弁済を実施する場合は、普通株式又は格付機関から同等以上の資本性が認定される証券もしくは債務（以下「借換証券」）により資金調達を行うことを想定しています。ただし、7年目の任意期限前弁済日以降に期限前弁済する際、一定の財務水準を満たす場合は、借換証券による資金調達を見送る可能性があります。

本劣後ローンは、“当社の戦略的投資を通じた経営の革新が、コロナ禍からの迅速かつ着実な回復・成長に寄与し、ひいては地域活性化に貢献する取り組みであり、ポストコロナ時代の経済社会全体の活力向上につながるもの”との意義を踏まえ、株式会社日本政策投資銀行（以下「DBJ」）が「特定投資業務」の一類型として設置した、「新型コロナリバイバル成長基盤強化ファンド」を活用しています。詳細につきましては、DBJより公表されておりますニュースリリースをご参照ください。（<https://www.dbj.jp/news/>）

以上